

北海道におけるサバンナシトドの初記録

山本友紀

〒087-0003 北海道根室市明治町 2丁目 6番地

サバンナシトド *Passerculus sandwichensis* は、北アメリカ北部および中部、メキシコ北西部および中部からグアテマラ南西部までで広く繁殖し、北部で繁殖するものは冬期に大陸南部へ移動する(五百沢ほか 2000)。

日本ではまれな冬鳥として宮城県、茨城県、埼玉県、新潟県、香川県、鹿児島県、沖縄県など本州以南で観察されている(五百沢ほか 2000)。サバンナシトドのアリューシャン列島からアラスカにかけて繁殖している個体群の若い個体が、越冬地への渡りの方向を誤って日本に渡来している可能性があるが(永田・石本 2000)、本州へ移動する際、通過点となる北海道では記録がなかった。今回、2004年 2月29日から 3月 4日にかけて、北海道根室市において本種 1羽を観察し、撮影したので報告する。

なお、本種は公表された論文(永田・石本 2000)があるが目録に間に合わなかったため、日本鳥類目録第 6版(日本鳥類目録編集委員会 2000)では、検討中の種にリストアップされている。

北海道根室市は北海道東部の根室半島に位置し、北海道では最東端の岬である納沙布岬(43°22'N, 145°49'E)がある。納沙布岬からは、歯舞群島、千島列島がカムチャッカ半島へと連なっている。納沙布岬から約 2kmほど離れたハマニンニク *Elymus mollis* などの生える海岸線の草地で2004年 2月29日の14:20頃、サバンナシトドと思われる個体 1羽を発見し、10倍の双眼鏡で観察し、デジタルカメラによる写真撮影を行なった。同じ場所にいたユキホオジロ *Plectrophenax nivalis* より人に対する警戒心は薄い様子であった。その後、3月 2日の11:50頃、3日14:40頃、4日14:20頃にも最初に目撃した同じ場所で確認された。

観察された個体はスズメほどの大きさで、脚はピンク色、嘴もピンク色だが、先端部と上面は茶色であった。細く白い頭中央線、うすい黄色の眉斑、目先から目の後ろへ細く茶色の過眼線、白い胸部から腹部には茶褐色の縦斑、短めの凹尾が特徴であった。オオジュリン *Emberiza schoeniclus* は脚に黒みがかかる点(五百沢ほか 2000)、コホオアカ *E. pusilla* は耳羽が赤茶色である点(五百沢ほか 2000)、キマユホオジロ *E. chrysophrys* は耳羽に白斑がある点(五百沢ほか 2000)、ウタスズメ

2004年 9月12日 受理

キーワード: 観察記録, サバンナシトド, 北海道, 根室半島

本論文のカラー写真を<http://www.wbsj.org/nature/database/strix/23/yamamoto.html>で見ることができます



図 1. 北海道根室市で観察されたサバンナシトド

Fig. 1. A Savannah Sparrow observed in Nemuro City on February 29, 2004.

Melospiza melodia は尾羽が長く円尾である点 (Sibley 2000), オジロヒメドリ *Pooecetes gramineus* は腹部がクリーム色である点 (Sibley 2000) が本個体と異なっており, これらの特徴をあわせもつサバンナシトドと同定した (図 1). また, サバンナシトドは 4つのグループに属する21亜種に分類され, 2000年に茨城県で捕獲された個体は基亜種グループに属するものであった (永田・石本 2000). 今回観察された個体も茨城の個体と同じく背面が淡いので (Rising 1996), 基亜種 *P.s. sandwichensis* もしくは基亜種グループに属する可能性が高いと考えられる.

ほぼ同時期に同じ空き地で数羽のユキホオジロも観察された. サバンナシトドとユキホオジロの繁殖地がアリューシャンからアラスカで重なっている地域があり (Sibley 2000), サバンナシトドは冬期と渡りの時には群れで移動する習性があることから (Aslop 2001), ユキホオジロの群れに混じって渡来した可能性も考えられる. 3月 5日に根室地方に降った雪で, サバンナシトドがいた草地は積雪で覆われてしまっていた. そのため, 3月 6日以降には本種を確認することができなかった. また, ユキホオジロは6日に数羽が観察されたものの, その後は確認されず, 同じく移動したと考えられた.

サバンナシトドが今回, 北海道根室市で観察されたことによって, 今まで本州以南で記録された個体は, アリューシャン列島から千島列島, 北海道を経て移動した可能性が高い. また, 基亜種 *P. s. sandwichensis* は, 北米大陸の西側であるアリューシャン列島からアラスカで繁殖しているため (Rising 1996), 南下の方向を誤ってしまった場合, ほかの亜種より日本へ渡来する確率が高く, 今後も基亜種および基亜種グループに属する個体が, 北海道を経由したルートで渡来してくる可能性がある.

最後に, 本報告をまとめるにあたり, 助言をいただいた日本野鳥の会 苫小牧支部の先崎啓究氏, 貴重な文献を提供していただいた日本野鳥の会 オホーツク支部の川崎康弘氏と川崎里実氏, 原稿を読んでいただいた春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターの篠木秀紀氏, 以上の皆様に厚く御礼申し上げます.

引用文献

- Aslop, F.J. 2001. Smithsonian handbooks Birds of North America Western Region. Dorling Kindersley Publishing, New York.
- 五百沢日丸. 2000. 日本の野鳥550山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 永田尚志・石本あゆみ. 2000. 茨城県におけるサバンナシトド *Passerculus sandwichensis* の捕獲記録. 日鳥学誌 49: 55-58.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録第 6版. 日本鳥学会, 帯広市.
- Rising, J.D. 1996. A Guide to the Identification and Natural History of the Sparrows of the United States and Canada. Poyser, California.
- Sibley, D.A. 2000. The Sibley Guide to Birds. Alfred A. Knopf, New York.

First record of Savannah Sparrow in Hokkaido, northern Japan

Yuki Yamamoto

2-6 Meiji-cho, Nemuro-shi, Hokkaido 087-0003, Japan

A Savannah Sparrow *Passerculus sandwichensis* was observed in Nemuro City from 29 February to 4 March, 2004. This is the first record of Savannah Sparrow in Hokkaido.

Key words: Hokkaido, *Passerculus sandwichensis*, *Savannah Sparrow*

